



熱中症に関する最新の情報

令和 7 年 3 月 19 日

環境省 大臣官房環境保健部企画課
熱中症対策室 室長 永田翔

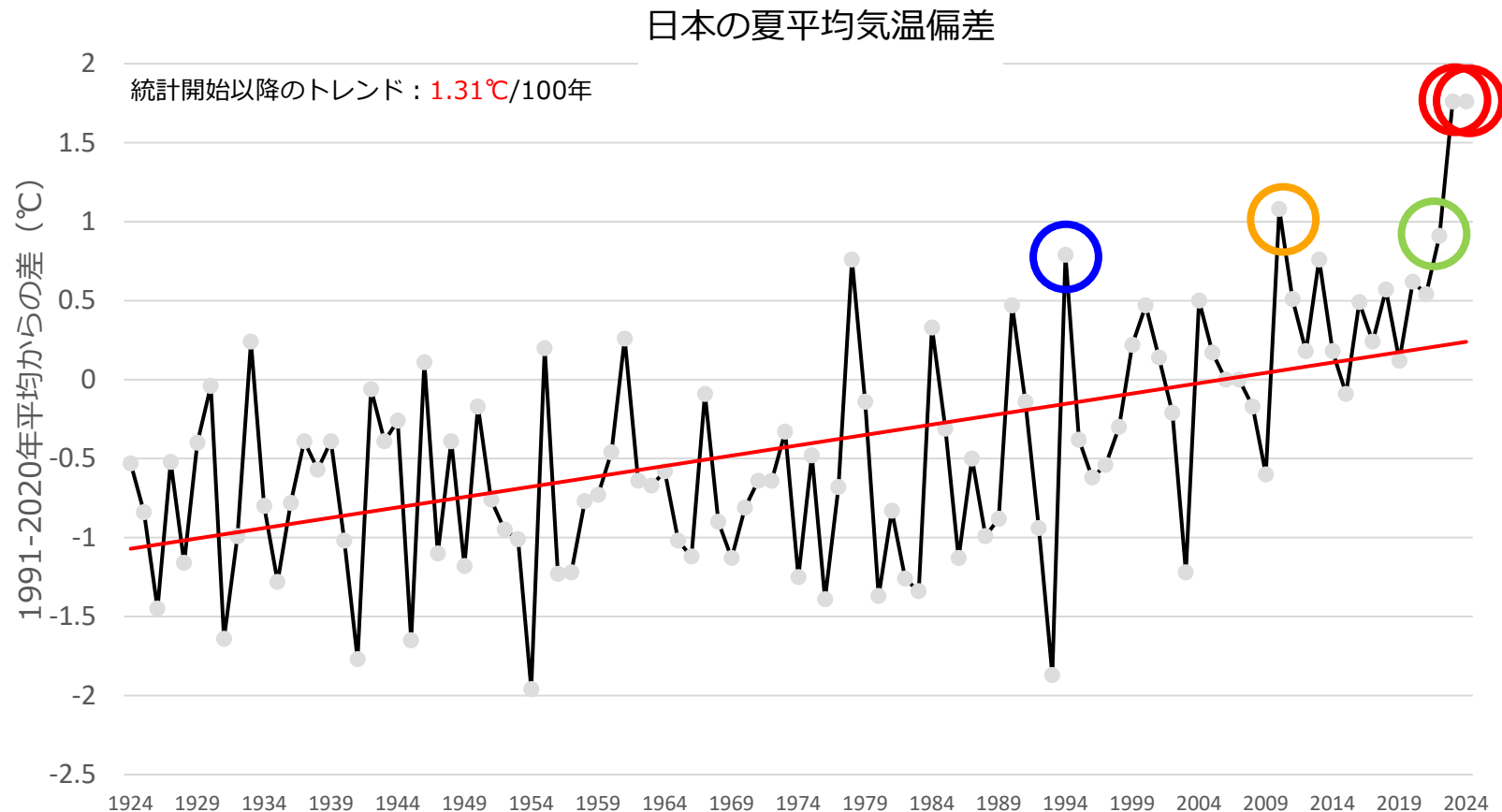
熱中症の最新状況

地球温暖化に伴い、日本の夏の平均気温が上昇

- ◆国内における夏（6～8月）の**平均気温は100年当たり1.31℃の割合で上昇**
- ◆1898年の統計開始以降、**2024年は2023年と並び観測史上最も“暑い夏”**

【夏の平均気温が基準値より高い年（1～5位）】

1位：2024年・2023年（+1.76℃）、3位：2010年（+1.08℃）、4位：2022年（+0.91℃）、5位：1994年（+0.79℃）



細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差、直線（赤）：長期変化傾向。基準値は1991～2020年の30年平均値。

出典：気象庁 日本の年平均気温を基に環境省が作成

＜参考＞ 気候変動対策における“緩和”と“適応”

緩和：気候変動の原因となる温室効果ガスの排出削減対策

適応：既に生じている、あるいは、将来予測される気候変動の影響による被害の回避・軽減対策

温室効果ガスの増加

化石燃料使用による
二酸化炭素の排出など

気候変動

気温上昇（**地球温暖化**）
降雨パターンの変化
海面上昇など

気候変動の影響

生活、社会、経済
自然環境への影響

緩和

温室効果ガスの
排出を削減する

地球温暖化対策推進法

適応

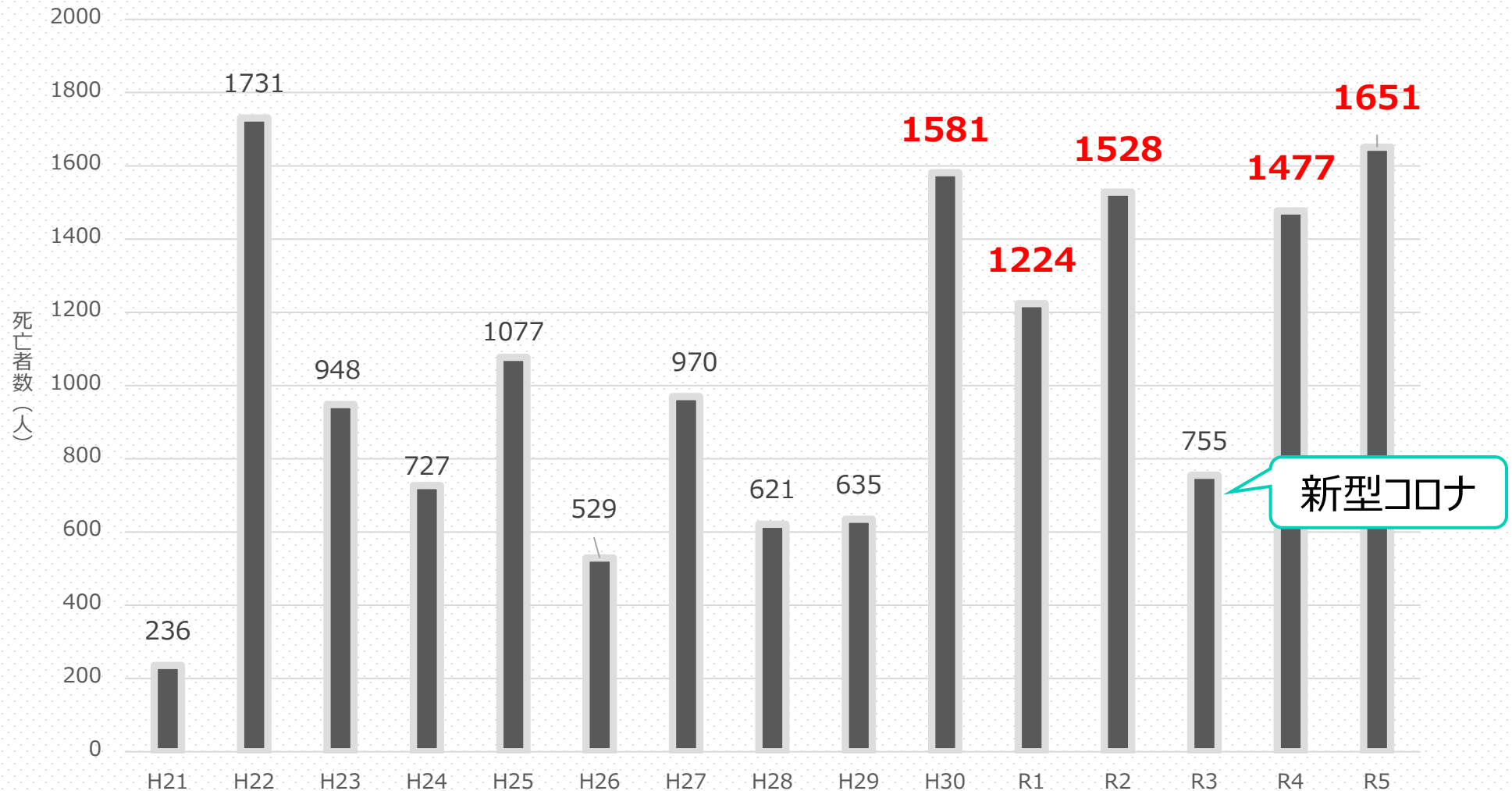
被害を回避・
軽減する

気候変動適応法

熱中症対策は、
様々な
“適応策”の一つ

熱中症による死亡者の年次推移

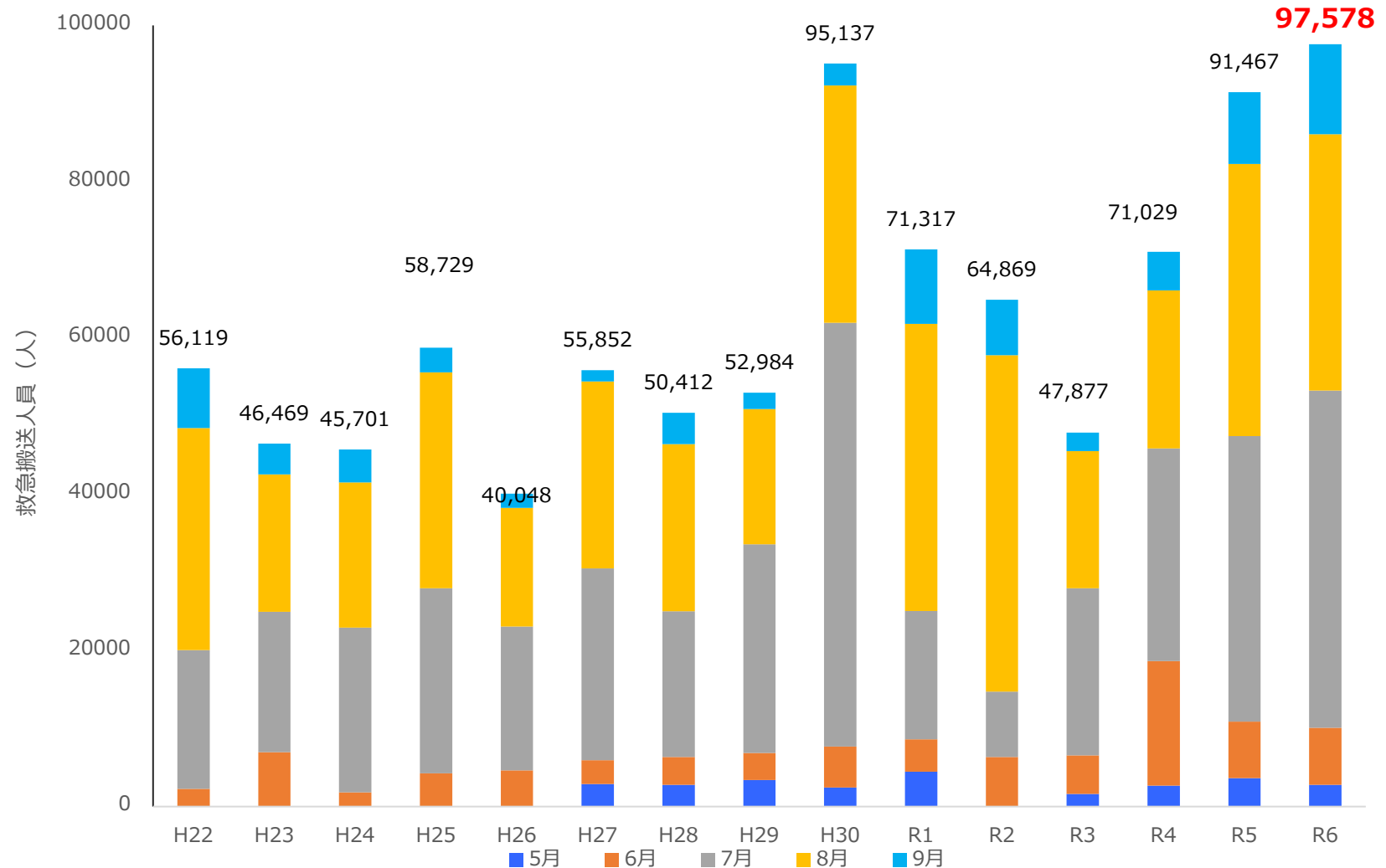
平成30年以降、令和3年を除いて1000人を超えている



出典：厚生労働省人口動態統計 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>)
令和6年9月17日 公表

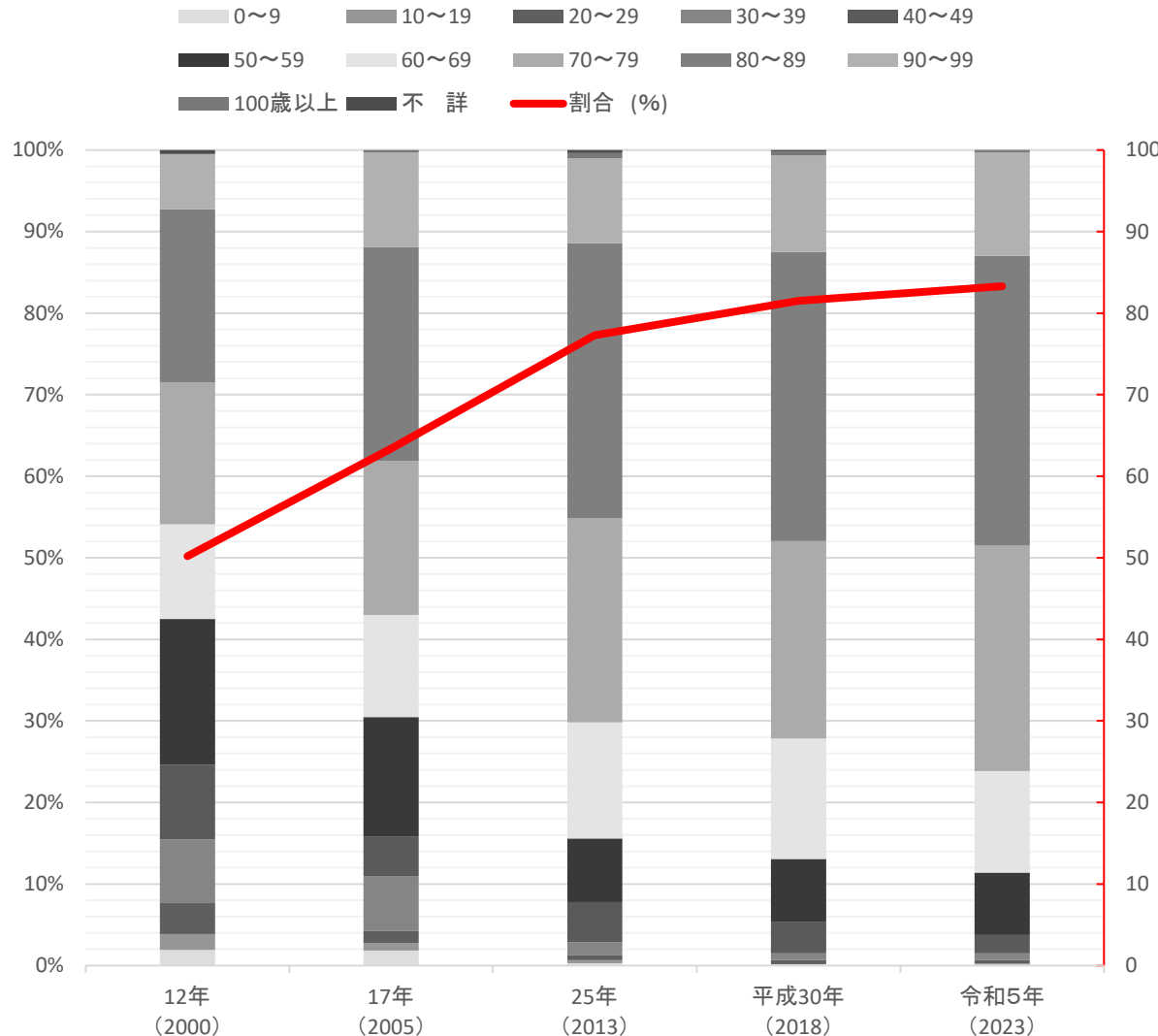
熱中症による救急搬送人員の状況

近年、搬送人員は4万～9万人前後で推移 **(2024年が史上最多)**



熱中症のうち高齢者が占める割合

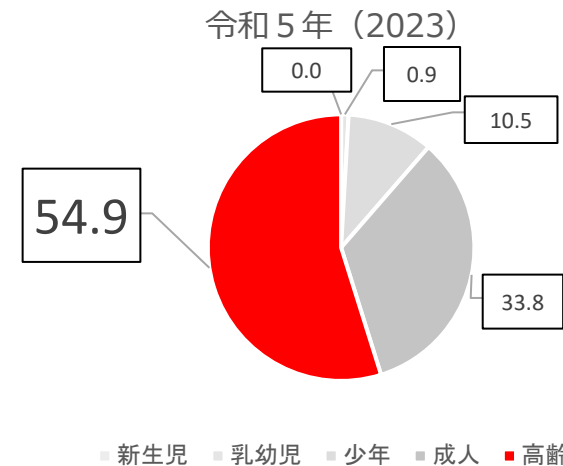
年代別の熱中症死亡者数と
高齢者（65歳以上）が占める割合



熱中症死亡者のうち
高齢者（65歳以上）の占める
割合は、上昇しており、**全体の8割超となっている**
(2023年**83%**)。

(参考)
熱中症救急搬送者のうち
高齢者の占める割合 **54.9%**

(参考) 年代別の熱中症救急搬送者の割合



左：厚生労働省人口動態統計（令和6年9月17日）を元に環境省が作成
上：総務省消防庁報道発表資料（令和5年10月27日）を元に環境省が作成

高齢者が熱中症になりやすい背景（推察）

- 高齢者は、一般成人と比較して、以下のような特性・特徴があり、熱中症や脱水症になりやすいと言われている。

<医学的・生理学的な要因>

- 「暑さ」を感じにくくなる
- のどの渇きを感じにくくなる
- 体内の水分量が相対的に少ない
- 発汗量・皮膚血流量が少ない
- 循環器疾患や腎機能低下の持病を持つ など

<医学的要因以外>

- エアコンによる「冷え」や電気代を心配し、エアコンをあえて積極的に使わない
- 体の「冷え」を心配し、複数枚の衣類を着込んでいる
- 循環器疾患などの持病や頻回のトイレを避けるため、あえて水分摂取量を減らしている
- 今よりも涼しかった「以前の日本の夏の暑さ」のイメージでいる など

環境省における熱中症対策

1. 2023年5月 改正気候変動適応法が公布 →2024年4月改正法施行
2. 2023年5月 政府「熱中症対策実行計画」を決定
3. 2024年4月 環境省内に「熱中症対策室」を設置
4. 毎年4月～10月 暑さ指数（WBGT）の実測・予測→公表
5. WBGTが高い場合に「熱中症警戒アラート」を発表
WBGTが極めて高い場合に「熱中症特別警戒アラート」を発表（予定）
6. 市町村が指定する「クーリングシェルター」の拡大に向けた支援
7. 国民向けに熱中症に関する様々な普及・啓発・理解の醸成
8. 地方自治体向けの研修、訓練、相談支援
9. 熱中症に関する研究の支援 など

暑さ指数（WBGT）について

政府・環境省では、暑さ指数（WBGT値）に基づいて、施策を行っている。

暑さ指数（WBGT）とは （WBGT : Wet Bulb Globe Temperature）

- ◆ 人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した、**気温、湿度、日射・輻射、風**の要素をもとに算出する**熱中症のなりやすさを示す指標**です。

【算出式】 $WBGT = 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$

○乾球温度：通常の温度計が示す気温。

○湿球温度：空気の湿り具合を示す温度。（湿度が高いほど体温が下がりにくい）

○黒球温度：黒色に塗装した中空の銅球で計測した温度。（日射や輻射熱等を反映）



暑さ指数（WBGT）測定装置

環境省では、4月から10月にかけて毎日、全国841地点で、暑さ指数の予測値や実況推計値を発表しています。これらは、「環境省熱中症予防情報サイト」「メールサービス」「LINE」などで多くの方に活用されており、例えば、テレビやラジオの天気予報などで活用されています。

※半年間で約1億ビュー、メールサービス登録者約〇万人など

(参考) 学会等が示している暑さ指数 (WBGT) を用いた指針

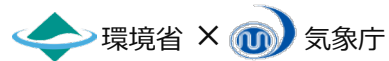
暑さ指数 (WBGT)による 基準域	注意すべき生活 活動の目安※1	日常生活における 注意事項※1	熱中症予防運動指針※2
危険 31以上	すべての生活 活動でおこる 危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
厳重警戒 28以上 31未満		外出時は炎天下を避け室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒 (激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
警戒 25以上 28未満	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。	警戒 (積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
注意 25未満	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意 (積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。

(出典) ※1 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」 Ver.3.1 (2021)

※2 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中層予防ガイドブック」 (2019)

熱中症警戒情報（熱中症警戒アラート）

令和6年度は4月24日(水)から10月23日(水)まで実施



熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 発表の基準

府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数（WBGT）が**33以上になると予測した場合**に発表

2. 発表の地域単位・タイミング

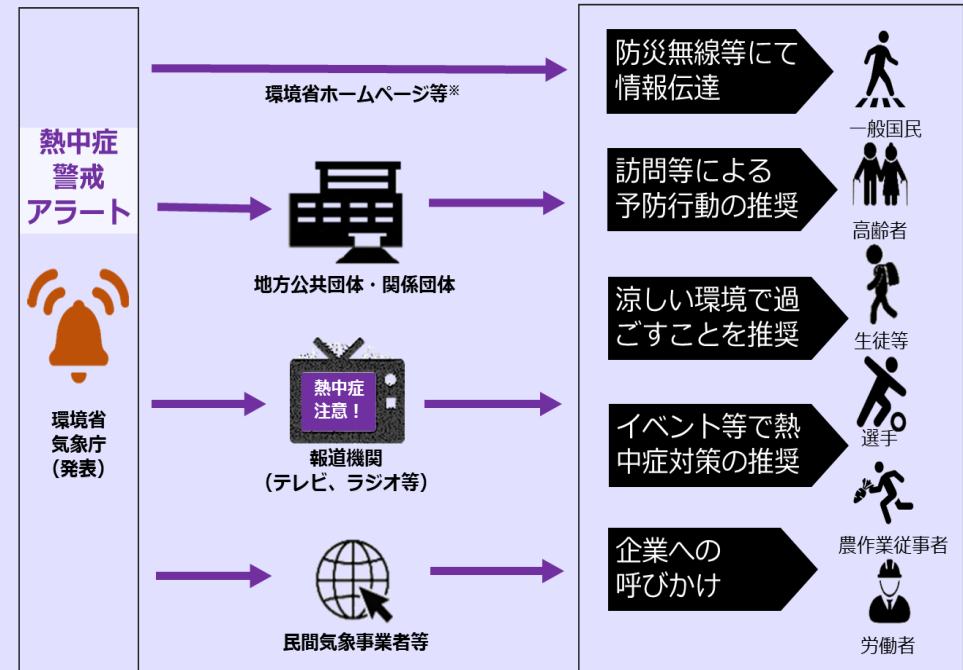
<地域単位>

- **気象庁の府県予報区等单位**で発表
- 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数（WBGT）も情報提供

<タイミング>

前日の17時頃及び当日の朝5時頃に最新の**予測値**を元に発表

3. 情報の伝達方法（イメージ）



※環境省熱中症予防情報サイトで情報発信を行うとともに、「熱中症警戒アラート等のメール配信サービス」及び「環境省LINE公式アカウント」等を活用。

【参考】過去の実績 ※※同一地域を複数回としてカウント

令和3年度 4/28～10/27	令和4年度 4/27～10/26	令和5年度 4/26～10/25
延べ発表回数※※：613回 発表日数：75日/183日 発表地域：53地域/58地域	延べ発表回数※※：889回 発表日数：85日/183日 発表地域：46地域/58地域	延べ発表回数※※：1,232回 発表日数：83日/183日 発表地域：58地域/58地域

4. 令和6年度の実績 4/24～10/23

延べ発表回数※※：1,722回
発表日数：103日/183日
発表地域：51地域/58地域
※※同一地域を複数回としてカウント

熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）

令和6年度は4月24日(水)から10月23日(水)まで実施



熱中症特別警戒情報

気温が特に著しく高くなることにより熱中症による人の健康に係る重大な被害が生ずるおそれがある場合に、環境省が発表する情報。

自助を原則として、個々人が最大限の熱中症予防行動を実践するとともに、共助や公助として、個々人が最大限の熱中症予防行動を実践できるように、国、地方公共団体、事業者等全ての主体において支援することを目的としている。

1. 発表の基準

都道府県内において、**全ての暑さ指数情報提供地点における、翌日の日最高暑さ指数（WBGT）が35（予測値）に達する場合**に発表

2. 発表の地域単位・タイミング

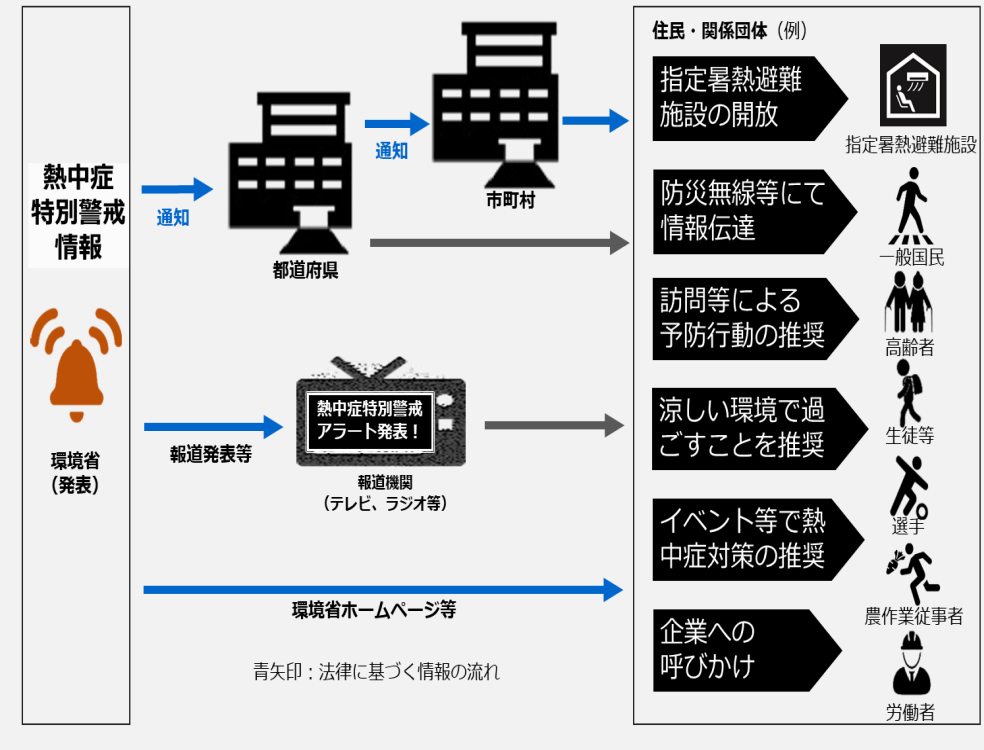
<地域単位>

- **都道府県単位**で発表
- 該当都道府県内の暑さ指数情報提供地点毎の予測される暑さ指数（WBGT）も情報提供

<タイミング>

前日10時頃における翌日の予測値で判断し、**前日の14時頃**に発表

3. 情報の伝達方法（イメージ）



4. 令和6年度の実績 4/24～10/23

延べ発表回数：0回

指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）

指定暑熱避難施設の概要

- 「熱中症特別警戒アラート」が発表される事態に備えて、市区町村長は住民等に開放される「指定暑熱避難施設（通称：クーリングシェルター）」を予め指定することができる。
→「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合、クーリングシェルターが住民等に向けて開放される。
- クーリングシェルターは、公的施設では市役所・公民館・図書館など、民間施設ではショッピングモール、薬局・ドラッグストア、理容室などで、指定が拡大しつつある
- 2024年夏の指定状況は
 - ・**全国の4割超（899／約1700）の市区町村が指定済み**
 - ・**全国合計で約1万2000以上の施設が指定済み**
- なお、クーリングシェルター以外にも、都道府県や市区町村が独自に「涼みどころ」や「クールスポット」等の名称で、暑さをしのぐためのスペースなどを提供している場合がある。



環境省では、市区町村によるクーリングシェルターの指定増加を支援しています。（「事例集」「相談窓口」など）

環境省が行っている熱中症の普及・啓発の主な取組①

- ◆ 『熱中症予防強化キャンペーン』の一環として、関係府省庁や関係機関が一体となり普及啓発を強化し、国民の意識を高めることが重要。
- ◆ 関係府省庁や民間企業等にも協力を募り、効果的な発信を行う。

環境省サイトやSNSによる情報発信

- ① 環境省熱中症予防情報サイトに、熱中症予防に資する情報や暑さ指数等の情報を掲載。

＜サイト訪問数（ページビュー）＞
2024年(4/24～9/1)
：約8,500万回
2023年(4/26～9/1)
：約6,000万回



＜熱中症予防情報サイト＞

- ② 環境省では公式XやFacebook、LINEアカウントから熱中症の情報を発信。

＜登録者数（9月1日時点）＞
X ：約35万人
Facebook：約7千人
LINE ：約35万人
（LINEは熱中症関連のみの発信）

- 熱中症関係府省庁と連携し、情報発信を行った。
- 7月末に、7日間連続投稿を実施。

ラジオを通じた普及啓発

高齢者の利用率が高いラジオを通じた普及啓発を実施

- ① 「杉浦太陽・村上佳菜子日曜まなびより」熱中症特別警戒アラートや熱中症警戒アラート等の新たな情報を発信。

（7/7 全国38局ネットで放送）



＜撮影時の写真＞

- ② 各地のラジオ局と連携した天気情報・予報に合わせた「熱中症予防」を各番組パーソナリティにて啓発を実施（8/5～19 JFN各38局中29局）



1回あたりの聴取人数は約280万人となり、
計10回延べ約2,800万人に情報発信

※聴取人数は、株式会社デビオリサーチの聴取率から算出

普及啓発の取組②

◆ 企業・団体と連携した普及啓発

熱中症予防イベント出席

暑熱環境への適応策の一環として、企業や自治体などと連携し「大手町・丸の内・有楽町夏祭り 2024『丸の内 de 打ち水』」を実施（7/26）



<2024年度>

動画配信・活用

環境省Youtubeによる配信とデジタルサイネージにて啓発。



<※写真は豊島区より提供>

鉄道事業者によるポスター掲示

主要駅において、ポスターを掲示し利用者に対して熱中症対策に関する情報発信を実施。



<JR船橋駅>

大型ビジョンを活用した情報発信

アルタビジョン新宿や原宿表参道ビジョンといった全国18箇所の大型ビジョンにおいて、当該地域の暑さ指数情報を放映。
(7/1～8/31)



<ラジ館VISION>

その他、講演会を通じた熱中症対策における情報提供を実施

2025年の夏は？



全国の季節予報

[1 か月予報](#)[3 か月予報](#)[暖候期予報](#)[暖候期予報解説資料](#)[暖候期予報参考資料](#)

全国 暖候期予報（06月～08月）

2025年02月25日14時00分 気象庁 発表

夏 06月～08月

天候

北・東・西日本では、6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、北日本では天気は数日の周期で変わり、東・西日本では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、5月から6月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温

平均気温は、北・西日本で高い確率60%、東日本で高い確率70%、沖縄・奄美で高い確率50%です。

気温、降水量の各階級の確率（%）

気温	北日本	夏 06月～08月	10	30	60
	東日本	夏 06月～08月	10	20	70
	西日本	夏 06月～08月	10	30	60
	沖縄・奄美	夏 06月～08月	10	40	50



気象庁の暖候期予報によると、
2025年夏も【暑い夏】になりそうです。

発表内容の要点

- 100年以上の間、日本の夏は徐々に暑くなっているが、特に近年の日本の夏は非常に暑くなっている（2023年夏及び2024年夏が史上最高）。
- 日本では、毎年、1000人以上の方が亡くなっている。その内、高齢者（65歳以上）が、8割以上を占めている。
- 政府では、様々な取組をしており、環境省では、以下を行っている。
 - ① 気候変動適応法等に基づく政府の取組のとりまとめ
 - ② 熱中症特別警戒アラート及び熱中症警戒アラートの運用、暑さ指数のお知らせ
 - ③ クーリング・シェルターの指定拡大の支援
 - ④ 様々な普及・啓発・呼びかけ
- **2025年夏も暑くなりそう**